

H26 裁判所総合職(人間科学) 一次語句説明 心理学 6 問解答例

解答例作成: 高橋美保(心理学担当講師)

第 1 問 臨床面接における転移と逆転移について 200 字以内で簡潔に説明しなさい。

解答例:

転移とは、セラピストに向けられるクライアントの肯定的・否定的感情のことであり、逆転移とは、セラピスト側がクライアントに向けるそれを指す。精神分析では、幼児期に主として両親との間に経験してきた葛藤の感情の再現であると説明されるが、今日では精神分析に限らず、臨床場面ではしばしば生じるとされる。

転移感情が生じた場合は、これに向かい合い、解釈することで、面接や治療を進める手がかりとして活かすことができる。(199 字)

第 2 問 アタッチメントの型について、具体例に触れながら 400 字以内で簡潔に説明しなさい。

解答例:

アタッチメントとは養育者と乳児の間の絆、あるいは、危機的状況におかれた際に、それを通じて乳児が主観的な安全の感覚を回復・維持しようとする心理的過程である。Ainsworth のストレンジ・シチュエーション法によって以下の 4 つの型でアタッチメントの個人差が捉えられる。

A タイプ(回避型):養育者がいなくなっても追い求めないなど、養育者との間に距離を置く傾向がある。B タイプ(安定型):養育者との分離では泣いたりするが、それ以外の場面では感情的に安定している。C タイプ(抵抗型):不安傾向が強く、養育者にしがみつきがちである。D タイプ(無秩序・無方向型):養育者に対する接近と回避が同時に生じ、突然のすくみなどが生じる。

これらの型の違いについては、生得的な気質の関与も指摘されているが、養育者の態度など、養育環境の差異の影響が注目されている。(376 字)

第 3 問 思考や記憶におけるスキーマ理論の概要とそれを実証した実験例について 400 字以内で簡潔に説明しなさい。

解答例:

スキーマとは、過去に蓄積された知識の集合であり、人は通常、新たな情報に接する際、そのスキーマに参照して処理をする。

スキーマと記憶に関しては、ブランスフォードとジョンソンの実験がよく知られる。「洗濯」という日常的な行為についてのややあいまいな文章の再認実験において、その文章を読む前にタイトル(「洗濯」)を与えた群では、タイトルなしで文章を読んだ群よりも記憶成績がよかった。これは、あらかじめタイトルを与えられた群では、「洗濯」についてのスキーマが活性化したため、洗濯の手順や方法についての自らの知識に参照しながら与えられた文章を読んだ。このため、内容を記憶しやすくなったと解釈できる。

このように、日常の様々な場面で人はスキーマを活用して効率のよい認知的な処理を行っている。
(336 字)

第 4 問 集団凝集性について 200 字以内で簡潔に説明せよ。

解答例:

集団成員に集団にとどまるように作用する、心理学的な力の総量のことをいう。その測定にあたっては、質問紙法を用い、成員がその集団に感じる魅力の程度で測定されることが多い。

集団凝集性が高い集団においては、集団の安定し、活動が活発化する等、肯定的な効果がある。その一方、凝集性が高すぎるために、逆に集団が全員一致の幻想の元、集団思考と呼ばれる愚かな集団意思決定に陥りやすいことも指摘されている。(193 字)

※測定ではソシオメトリーを使うことも多い。解答では別に測定法は書かなくてもよい。

※集団思考については触れた方がよい。

第 5 問 ストループテストについて、その概要と関連する基本的な認知機能 について 400 字以内で簡潔に説明しなさい。

解答例:

ストループテストとは、選択的注意の干渉が生じるような課題のことをいう。具体的には、様々な色インクで書かれた色名を提示し、その色名の文字ではなくインクの色を答えるという課題が代表的である。文字とインクの色が異なる条件(例:赤インクで書かれた「青」の文字)では、文字とインクの色が同じ条件と比較して、反応時間が長くなり、誤反応も増える。

このような効果は、選択的注意において、一方の特性に注意を向け、他方の特性を無視しようとしても、後者から干渉を受けるために生じる。特に、無視しようとする特性が自動的に処理されるようなものである場合に生じやすい。この色名と色インクの関係でいえば、人は「文字」と「文字色」では「文字」の方を読むことが習慣として自動化しているため、それを無視して意識的に「色」反応しようとする干渉が生じると説明できる。

(364 字)

第 6 問 欲求階層説について、被虐待児の立場と関連づけながら 400 字以内で簡潔に説明せよ。

解答例:

Maslow は人間には自己実現という全体的成長・統合への傾向があると考え、人の持つ様々な欲求を階層構造で表した。最低層から順に、生理的欲求、安全の欲求、愛情と所属の欲求、自尊欲求、自己実現の欲求の 5 段階がよく知られる。自己実現以前の 4 つの階層については、満たされば満足するため欠乏欲求、自己実現欲求については、その活動自体が目標となるので満たされてもさらに高みを求めるようになるという。

この理論の特徴は、より低位の欲求が一部でも満たされて初めて次の段階の欲求が生じるというところである。これを踏まえると、被虐待児の場合、生理的、安全、愛情と所属といった低位の欲求でとどまる傾向があることが予想される。虐待を受けた子どもがしばしば愛着や対人関係に問題を抱えたり、低い自尊感情が指摘されることも、この理論から説明が可能である。

(361 字)

上記解答例作成に際して利用した文献:

梅津・相良・宮城・依田 監修 心理学事典 平凡社

鹿取・杉本・鳥居 心理学第4版 東京大学出版会

海保・楠見 心理学総合事典 朝倉書店

箱田・都築・川畑・萩原 認知心理学 有斐閣